

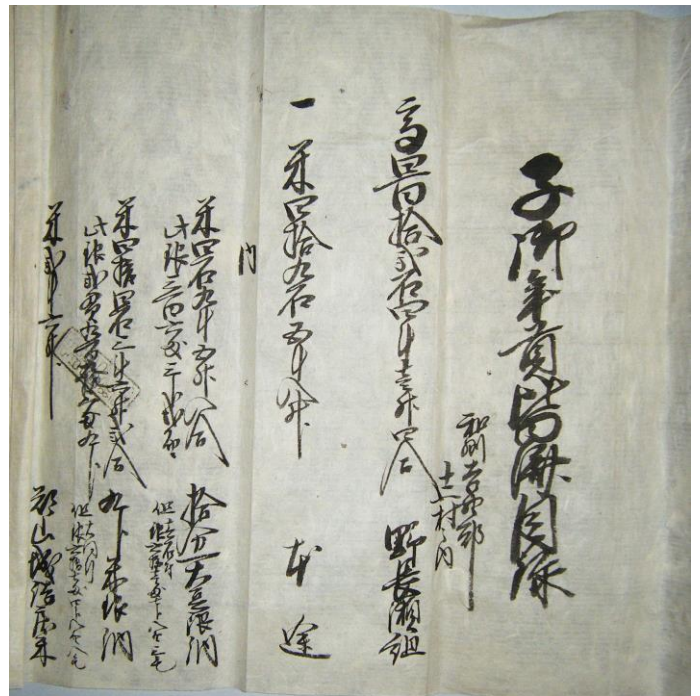
古文書を読むための手引き

①古文書を読むには

古文書というと「みみずの這ったような字」が書いてあるけど、何を書いているのかよく分からない」といったイメージがあります。最近、古文書を主体とした展示が多く行われるようになりましたが、古文書を読むことはまだまだハードルが高く、とっつきにくいものだと思います。

しかし、古文書は「くずし字」で書かれていても日本語で書かれているものです。そして、くずし字を読むには、まずその文字が「どのようにくずされているのか」など理解する必要があります。

また、古文書を読むにはくずし字や「候文」とよばれる独特の文体に慣れる事が必要です。そのためには時間・根気がかかりますが、読むことができるようになってくると楽しいものになります。



②古文書を読むためのコツ

くずし字をいきなりスラスラと読むのは大変難しいものです。いきなり全部を理解しようとするのではなく、少しずつ理解を深めていくことが必要です。以下の内容は担当者の経験から考える「読むためのコツ」です。

1. よく出てくる文字を把握する。

まず、壺・弍・参などの数字は年月日や数量でたくさん出てきます。また、名前は「◎兵衛」「△右衛門」「▲左衛門」などある程度決まったものが多く見られます。ですから、これらの文字のくずし方を覚えてしまうと良いでしょう。

また、尊敬をあらわす「御」や文章の終わりであらわれる「候」なども古文書の中にはよく出てきますので、ある程度のくずし方を覚えておくと良いでしょう。

2. 部首・旁を判断する。

くずし字をみて、一文字全体が分からなくても、部首や旁だけ分かる場合があります。これだけでも判読できるようになると理解が進みます。一部分がわかると、あとで紹介するくずし字辞典で調べることができます。

また、江戸時代には異体字（もともとの漢字の正字）が使われていますので、その漢字を覚えて置くことも重要です。

3. 文字がどこまでなのか考えながら読む。

古文書を読んでいると、文字がどこで切れるのか分からない場合がままあります。その場合、分からないところは何文字あるのか考え、その文字数をあけて読み進めましょう。

4. 分からない文字は後回しにする。

古文書に慣れてきても、分からない文字は出てきます。その場合、分からない文字をとばして読み進めます。慣れてくると文脈や文意から分かってくるようになりますし、読めなかった文字がふと読めたりもします。

◎これらのことを意識しながら、原稿用紙などに書き写してみましょう。そのとき、分からない部分は何文字あるのかを判断して、その文字数分を空けておきます。後に答えあわせをする時には赤などで訂正して、どこが読めなかったのか分かるようにしておきます。そして、もう一度読み返してみることで理解がいつそう深まると思います。はじめは読めない文字がたくさんあると思いますが、多くの文書を読んでいくことでだんだんと読めないところが減っていくと思います。

また、「候文」の言い回しになれるために自治体史の史料編や図録に掲載されている釈文を音読するのも一つの方法です。

③古文書を読むときに参考にするもの。

1. 辞典

くずし字を読むための専用の辞書。引き方によっていろいろな辞書があります。手元においておきたいものです。よく紹介され、利用されるのは次の2種類になります。

• 書き順から探すもの

どこから筆が入って、次にどのように動くか、といった文字の筆の運びから文字を探すものです。まったく文字の判断がつかないときに利用すると便利です。

※『くずし字解説辞典』（柏書房）など

• 現在の漢和辞典と同じように引く

漢和辞典と同じように部首ごとに文字がならべられた辞典です。部首はわかるけど旁が分からない場合、熟語の一部が分からない場合など、一部分は分かる場合に利用します。読んだけど合っているか確証の持てない文字を確認することにも利用できます。

※『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など

これらの辞典はお近くの図書館の「参考図書」「辞書」などのコーナーに置かれていると思います。ここで紹介した辞典以外にも多くのくずし字の辞典が販売されています。いろいろと利用してみて、自分にあったものを利用すると良いかと思います。

2. 地名辞典

地域の古文書を読み進めるとき、その地域の地名を正確に理解する必要があります。特に郡名などは現在ではつかわれていないものがたくさんあります。また、地名辞典には地名だけではなく、その村にあった寺や神社などの情報がまとめられており、周

辺情報の参考になるものです。

※『奈良県の地名』（平凡社）、『角川日本地名大辞典』（角川書店）…どちらも全都道府県のものがあります。

3. 古文書読解テキスト

古文書を読むには読んだ古文書の質ではなく、古文書を読んだ量のほうが大事だと思います。また、古文書を所蔵されているのであれば、その古文書を読み進めるのも良いいでしょう。そして、「この古文書を読みたい」という気持ちを持つことが大事になってきます。

また、書店に行くと古文書読解テキストがたくさん販売されています。これらを実際に手に取って見て、自分の使いやすいもの、理解しやすいもの、を使って学習すると良いでしょう。

文責：五條市教育委員会文化財課